

こくしのたち

国司館と家康御殿VR復元



国司館での蹴鞠に向かうシーン

■古代武藏国府の国司館と徳川家康府中御殿をVR映像で見られます

古代武藏国府の国司館と徳川家康府中御殿のイメージをわかりやすくお伝えするため、人物が動く映像を入れたVR映像を制作しました。

なお、古代の国司館の建物は、発掘調査の成果などをもとに再現し、徳川家康府中御殿は、発掘調査が一部しか行われていないので、あくまでイメージ映像として制作しました。

管理事務所で、武藏国府スコープ（もしくはタブレット）を借りたら、ポイント0から案内に従い、順次園内を回ってください。各ポイントに行くと、番組が流れます。ビューポイントは、全部で5箇所です。

■各ポイントの解説

- ポイント0：使用上の注意点をお伝えします。
- ポイント1：模型の解説と、上空から国府域全体を俯瞰できます。
- ポイント2：古代の蹴鞠を再現したシーンが流れます。



国司館主殿CG復元

●ポイント3：主殿内部で行われていた万葉集を詠む宴を再現したシーンが流れます。

●ポイント4：徳川家康府中御殿で、家康が鷹狩りに行く前のシーンと多摩川周辺で行われた鷹狩りを再現したイメージ映像が流れます。

●ポイント5：発掘お宝発見ゲームです。発掘調査が行われていた時の現場全体を見ながら、5つのお宝を探します。皆さんも考古学者になって、お宝を見つけてください。何が出るかな？？？

■徳川家康府中御殿とは？

●府中御殿とは？

府中御殿は、天正18年（1590）に、徳川家康が豊臣秀吉を接待するために造営したとする説が有力でした。しかし、近年では、豊臣秀吉本人が、御殿を造ったとする説も有力視されています。

東海地方から関東地方に100以上造営されたとされる御殿のなかでも、初期に造られたものです。

発掘調査では、徳川将軍家の初期の「三葉葵紋」の鬼瓦が発見されたことから、ここに徳川将軍家の府中御殿があったことが証明されました。

●いつまで使われたの？

府中御殿は、家康が鷹狩等を行う際に滞在した施設で、秀忠、家光の三代に亘って使われました。多摩川越しに富士山を望むことのできる府中随一の景勝の地であることや防備性も重視して、この地が選ばれたのかもしれません。

正保六年（1646）の府中大火で焼失しました。

●鷹狩りの目的は？

徳川家康は、歴代将軍のなかでも、特に、鷹狩りを好んだとされています。しかし、府中御殿が建てられた頃は、まだ徳川政権が安定しておらず、領地視察と軍事訓練が主な目的だったのではと考えられています。

●今も残る御殿と地名

この周辺には、「御殿坂」、「御茶屋街道」、「御狩（獵）場道」など、御殿にちなんだ地名が今も残っています。皆さんも探しでみてください。



徳川家康府中御殿CGイメージ（中央が家康）

府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課

（平成30年（2018）11月発行）

〒183-0023 東京都府中市宮町3-1

府中市立ふるさと府中歴史館3階

<TEL> 042-335-4487（直通）<FAX> 042-360-4401

<Eメール> bunkazai01@city.fuchu.tokyo.jp